

社会科学習指導案

I 単元 変わってきた人々の暮らし—新発見！道具の変化調査隊！—

II 考察

1 教材観

(1) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学，調査したり年表にまとめたりして調べ，人々の生活の変化や人々の願い，地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具，それらを使っていたころの暮らしの様子

(2) 培われる主な資質・能力

- ・地域の人々の生活の変化に関心をもち，意欲的に調べるとともに，地域社会や自分たちの生活のよりよい発展を考えようとする態度
- ・地域の人々の生活の変化に関する事象から問題を見出して追究し，地域の人々の生活の今昔の違いや変化，過去の生活における人々の知恵や願いを考え，表現する力
- ・古くから残る暮らしにかかわる道具や人々の生活の変化について，観点に沿って調査したり，資料や聞き取りから必要な情報を集め読み取ったりまとめたりする力
- ・古くから残る暮らしにかかわる道具や，それらを使っていたころの人々の生活の様子，生活の変化や向上が人々の知恵や願いによるものであることを理解する力

(3) 教材や学習対象の価値

本小単元は，古くから残る暮らしにかかわる道具や，それらを使っていたころの人々の暮らしの様子について調べ，人々の生活の今昔の違いや生活が道具の変化に伴って移り変わっていること，生活の向上への人々の願いや努力の大切さを理解する学習である。その価値は以下のとおりである。

人が暮らしを営む上で道具は欠かせない存在であり，道具の有無やその機能は，私たちの暮らしに大きく影響している。そのため，過去から現在へと至る中で生じた道具の変化によって，私たちの暮らしはより快適なものへと移り変わってきた。

暮らしと密着した調理や洗濯，裁縫，冷暖房，照明にかかわる道具の変化と，それに伴う人々の生活の様子を調べることで，変化の背景にある人々の知恵や願いを具体的に考えられる。その際，地域の高齢者が子どものころ，父母が子どものころ，現在の道具を取り扱うことで，現在の自分たちの生活の様子と比較し，生活の今昔の違いや生活が道具の変化に伴って移り変わっていることを理解できる。また，現在の自分たちの生活の歴史的背景に興味をもてる。

さらに，今後の暮らしにかかわって，道具がより自動化することへの賛否を考えることは，生活を向上させてきた人々の願いや努力の大切さへの理解を深め，先人の努力の上に成り立つ現在の自分たちの生活や地域社会の在り方に関心をもとうとする態度を養うことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「変わってきた人々のくらしー大調査！昔から伝わるものの謎！ー」で、前橋市に昔から伝わる文化財や年中行事について調べ、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の様子や、地域の人々の生活の安定と向上に対する願いや努力を理解する学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、3年「わたしたちのくらしと商店や農業の仕事ーきゅうりづくり農家をたんけんしようー」で、きゅうりづくり農家の生産の仕事を調べ、きゅうりづくりに携わる人々の工夫について考え、食べ物をつくる仕事は自分たちの生活を支えていることや他地域と関わりがあることを理解する学習に取り組んできた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ・たくさんのきゅうりを生産するためのきゅうりづくり農家の仕事を意欲的に調べ、前橋市のきゅうりづくり農家の生産の仕事に興味・関心を高めてきた。このような子どもたちが、昔の道具とそれらを使っていたころの人々の生活の様子を意欲的に調べ、人々の暮らしの移り変わりへの興味・関心を高められるように、昔の生活の模擬体験や昔の道具の観察を基に、昔の道具や人々の生活の様子についての疑問や調べたいことを話し合う活動を設定する。
- ・前橋市でたくさんのきゅうりが生産される理由について、きゅうりづくりに携わる人々の仕事の工夫と消費者の思いとを関連付けて考えられるようになってきている。このような子どもたちが、人々の生活の移り変わりについて、道具の変化と具体的な生活の様子を関連付けて考えられるように、生活の変化をまとめる図を示しながら、それぞれの道具の変化に伴う人々の生活の変化の共通点を話し合う活動を設定する。
- ・たくさんのきゅうりを生産するための工夫について、観点に沿って収集した情報をまとめられるようになってきている。このような子どもたちが、道具の変化について、観点に沿って収集した情報をまとめられるように、道具の使用形状や形状、使われた年代をまとめるカードを用意する。
- ・地域には農作物の生産に関わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、きゅうりづくり農家の仕事の特色や国内の他地域との関わりを理解してきている。このような子どもたちが、人々の生活の今昔の違いや生活が道具の変化に伴って移り変わっていること、生活の向上への願いや、努力の大切さを理解できるように、同じ立場の子ども同士の小集団で、根拠や解釈を整理する図を示しながら、道具の自動化が進むことへの賛否の根拠や解釈を相互補完する場を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 調理器の自動化に対する賛否について、立場を明確にして理由を話し合うことを通して、生活の向上への願いをもつことや、生活の向上に向けて自分自身が努力することの大切さを理解する。
- 2 準備 全自動調理器を説明する資料、停電時の生活の様子を示す資料
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
1 本時のめあてをつかむ。	○「全自動調理器ができることに対する自分の

・全自動調理器ができることについて意見が分かれていたけれど、理由を話し合ってもっと考えが違ふ友達に納得してもらいたいな。

2 調理器の自動化に対する賛否の理由を話し合う。

・自動で料理を作ってくれるさらに便利な道具ができれば、家の人が料理を作る大変さがなくなって楽になるから賛成だな。

・自分で作るから、やり甲斐や楽しさがあることは分かるけれど、料理の時間を他の時間に使えるようになって、自分がしたいことにもっと時間を使えるようになると思うな。

・たしかに調理器ばかりに頼っていたら、料理を作れなくなって、自分でできることがどんどん少なくなってしまうかもしれないな。

・なるほど。何でも自動になることは、生活が楽になるとは言えないかもしれないな。

3 調理器の自動化に対する自分の考えをまとめる。

・調理器が便利になることは時間が増えたり、けがが減ったりすることには必要だけど、調理器を使う人が努力したり工夫したりすることも、やっぱり大切なのだな。

・生活をよくしたいと思うことは大切だと思うよ。でも、調理器がもっと自動化することは、自分自身の努力や工夫がなくなってしまうから反対だな。

・調理器が便利になってきたのは良いことだけど、そのよさばかりに頼るのではなく、使い方や正しく身に付けたり、工夫したりする中で、自分にできることを増やしていきたいな。

4 本時のまとめをする。

・調理器だけでなく、他の道具でも同じことが言えると思うよ。だから、これからは道具を上手に使う中で、よりよい生活ができる自分の力を付けていくことが大切だと思うな。

・友達のいろいろな考えを参考にして、これからの道具の変化や自分の生活について考えられるようになったな。

考えをはっきりさせて説明できるようにしよう」という本時のめあてをつかめるように、共通課題の確認と本時の活動を問いかける。

☆調理器の自動化に対する賛否の立場と、その理由を確かにできるように、同じ立場の子ども同士の小集団で、根拠や解釈を整理する図を示しながら、道具の自動化が進むことへの賛否の根拠や解釈を相互補完する場を設定する。

○調理器の自動化に対する賛否についての考えを学級全体で共有できるように、学級全体で討論する場を設定する。

○調理器の自動化に対する賛否の理由を整理できるように、理由を短冊に表して掲示する。

○それぞれの立場の根拠となる事実を増やせるように、全自動調理器を説明する資料、停電時の生活の様子を示す資料を提示する。

○生活の向上への願いをもつことや、生活の向上に向けて努力することの大切さに気付けるように、生活をよりよくするために道具を使う人間に必要なことを問いかける。

○調理器の自動化に対する自分の立場やその理由、今後の自分の生活の在り方についてまとめられるように、話し合いを基にした自分の考えを記述するよう促す。

評価項目

より便利な生活への願いや、生活における知恵を身に付けることの必要性の面から自分なりの考えを記述したり発言したりしている。 <ノート・発言(4)>

○道具の自動化が進むことに対する自分の考えをもてるように、身の回りにある調理器以外の自動化が進む道具との関わり方について問いかける。

○調理器の自動化について、多面的に判断して自分の考えがもてたことを自覚できるよう、考えの変容について問いかけ、自分の考えを詳しく説明できたことを賞賛する。

指導と評価の計画（全10時間）

目標	道具の変化と当時の人々の生活とをかかわらせて考え，生活の様子に移り変わってきたことを理解する。			
評価規準	(1) 昔の道具に関心をもって調べたり，道具と人々の生活とのかかわりを考えようとしていたりしている。 (2) 人々の生活の変化について共通課題や学習計画を考えたり，道具の変化と人々の生活の変化とを関連付けて人々の知恵や願いを考えたりし，表現している。 (3) 昔の道具にかかわる資料を収集したり，聞き取り調査をしたりし，必要な情報を読み取ったりまとめたりしている。 (4) 人々の生活の今昔の違いや生活が道具の変化に伴って移り変わっていること，生活の向上への願いや努力の大切さを理解する。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）	評価項目＜評価方法（観点）＞
つかむ	2	○昔の道具を使った生活の疑似体験をし，感想を話し合う。	○昔の道具や当時の人々の生活についての感想をもてるように，「道具の形や大きさ」「道具の使い方」「作業手順」「仕事時間」の違いを視点として提示する。	◇昔の道具を使った生活の労力や仕事時間の多さや，昔の道具に見られる工夫を記述したり発言したりしている。＜ノート・発言（1）＞
	1	○昔の道具を使った生活と現在の道具を使った生活との違いから共通課題をつかみ，調べる昔の道具を決める。 共通課題 道具の変化は，人々の生活をどのように変えたのだろうか。 <調べる年代> <調べる道具> ・現在 ・洗濯，照明，冷暖房，調理， ・父母が子供のころ 裁縫に関する道具 ・祖父母が子供のころ	☆道具の変化に伴う人々の生活の変化について疑問や調べたいことをもてるように，模擬体験の感想を整理した表や生活に関わる昔の道具を提示する。	◇昔の道具と，それを使った人々の生活について，調べたいことを記述したり発言したりしている。＜ノート・発言（2）＞
追究する	3 + 家庭	○自分が選んだ昔の道具を調べ，昔の道具やそれらを使っていたころの人々の生活の様子をまとめる。	☆道具や人々の生活の変化を整理できるように，道具の名前と使用された年代，道具の使用法や形状をまとめるプリントと生活の変化をまとめる図を提示する。	◇道具の変化に伴う人々の生活の具体的な変化について，まとめる図に記述している。＜図（3）＞
	2	○道具の変化に伴う人々の生活の変化についてまとめる。	☆人々の生活の今昔の違いや生活が道具の変化に伴って移り変わってきたことを理解できるように，生活の変化をまとめる図を活用し，それぞれの道具の変化に伴う生活の変化の共通点を話し合う活動を設定する。	◇人々の生活の今昔の違いや生活が道具の変化に伴って移り変わってきたことを記述したり，発言したりしている。＜ノート・発言（4）＞
	1	○道具の変化に伴う人々の生活の変化について考え直し，新たな共通課題をつかむ。 共通課題 調理器が全自動化することに賛成か，反対か。	☆道具の自動化の視点から，これからの人々の生活について考え直すことができるように，道具の変化に伴う人々の生活の変化の長所と短所を整理した表と自動化されてきた道具の資料を提示する。	◇道具の変化に伴う人々の生活の変化の長所や短所を基に，自分の考えを選択・決定し，その理由を記述している。＜図（2）＞
まとめる	1	○道具の自動化が進むことに対する自分の立場を考える。（本時）	☆生活の向上への願いや努力の大切さを理解できるように，自分の考えを整理する図を活用し，道具の自動化が進むことへの賛否を話し合う活動を設定する。	◇より便利な生活への願いや，生活における知恵を身に付けることの必要性の面から自分なりの考えを発言したり記述したりしている。＜ノート・発言（4）＞